

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

| | | | |
|-----------|---------------------------------------|-----------|----------|
| (1) 取組名 | 「浄法寺漆」による地域再生プロジェクト ～国産漆最大の産地が挑む元気再生～ | | |
| (2) 実施団体名 | 岩手県二戸市 | (3) 対象地域 | 岩手県二戸市地域 |
| (4) 代表団体名 | | (5) 推薦団体名 | |

| | | | | |
|--------------|------------|--|--|--|
| (6)実施した取組の内容 | 取組① | 漆の原木分布調査及び植樹祭の開催 | | |
| | 実施主体 | 二戸市 | | |
| | 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 漆原木の実態調査、データベース化及び市民参加による植樹祭の実施 ・実施時期: 平成20年10月～平成21年2月 ・実施場所: 浄法寺地域 ・取組の目的: 漆原木の実態を調査しデータベース化するとともに、植林への理解を深めるため市民参加の植樹祭を行い、漆の増産に向け計画的な植林を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 漆原木の実態調査、データベース化及び市民参加による植樹祭の実施 ・実施時期: 実態調査、データベース化→平成20年10月～平成21年2月 植樹祭→平成20年11月 ・実施場所: 浄法寺地域 ・取組の結果: 漆原木の実態について、各地域の山林管理団体の協力を得て調査し、その調査結果を基に森林組合でデータベース化を行った。また、植樹祭は、悪天候にもかかわらず、従来の地元高校生に加え、商工会青年部の主体的・積極的な協力のもと一般市民の参加を得て開催し、参加者に植樹の必要性を認識してもらうことが出来た。 | |
| | 取組② | 漆関連産業就労プログラムの策定 | | |
| | 実施主体 | 二戸市 | | |
| | 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 漆関連産業への就労プログラムの策定及び実証実験 ・実施時期: 平成20年11月～平成21年1月 ・実施場所: ー ・取組の目的: 年代や就業形態に応じた就業プログラムを策定し、漆掻きや漆塗りなど漆関連産業への就業による定住促進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 漆関連産業への就労プログラムの策定 ・実施時期: 平成20年11月～平成21年1月 ・実施場所: 全国の漆掻き研修修了者 ・取組の結果: 平成20年度までの対象者23名に対してアンケートを実施し、その回答をもとに就業する際に支障となる点や行政からの支援について聴取し、地域の雇用状況も踏まえ、今後の継続的な取組に向けたモデルとなる就労プログラムを策定した。 しかし、実証実験については、検証期間が短いため候補者が確保出来ず、翌年度以降に実施することとした。 | |
| | 取組③ | 展示会「漆 樹のしずくをあつめて…」の開催 | | |
| | 実施主体 | 二戸市 | | |
| | 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 漆に関する展示会、講演会の開催 ・実施時期: 平成20年10月～平成21年2月 ・実施場所: 京都市 ・取組の目的: 漆の採取道具や漆器などの実物展示、パネル展示、漆掻きや漆塗りの実演などを行うとともに、訴求効果が高い著名人の講演会を開催し、「浄法寺漆」とその漆芸品について、全国に向けた継続的情報発信の契機とする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 漆に関する展示会、講演会の開催 ・実施時期: 平成21年1月 ・実施場所: 京都市 ・取組の結果: 漆の採取道具や漆器をはじめ、漆木を用いた漁具などの実物展示、パネル、漆掻きや漆塗りの実演などを行ない、「浄法寺漆」とその漆芸品について、理解と認知度の向上が図られた。また、同会場で瀬戸内寂聴師による講演会を開催するなど、複合的な取組による相乗効果により、講演会の来場者に対して「浄法寺漆」と「浄法寺塗」をPRすることが出来た。 | |
| | 取組④ | 販売促進ワークショップの開催とマーケティング調査 | | |
| | 実施主体 | 二戸市 | | |
| | 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 文化財建造物所有者や漆工芸家、漆器販売店などを対象としたワークショップの開催及びマーケティング調査 ・実施時期: 平成20年11月～平成21年2月 ・実施場所: ー ・取組の目的: 漆と漆器のワークショップにより、使用者や消費者の要望や課題を明確にし、新商品開発の促進、販路拡大を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 文化財建造物所有者や漆工芸家、漆器販売店などを対象としたワークショップの開催及びマーケティング調査 ・実施時期: 平成21年1月～平成21年2月 ・実施場所: 京都市 ほか ・取組の結果: 漆と漆器をテーマに開催し、専門家による説明や一般参加者も含めた質疑を行い、漆、漆器に対し評価や要望が出され、産地として今後、継続して取り組むべき課題が明確になった。また、開催後に販売や使用の打診が数名からあるなど、販路拡大に向けた波及効果が得られた。 | |

| | 平成20年度の取組実施における体制・役割分担 | 取組の実施を踏まえた反省点 |
|--|--|---|
| (7)実施体制 | <p>・二戸市 市が実施主体となったが、各取組においては、地元商工会青年部、生産・販売組合、森林組合、岩手県、岩手県立大学、岩手県工業技術センター、京都市、京都市工業技術センター、京都漆器工芸協同組合、国立文化財機構など多くの関係者の協力を得て実施した。</p> | <p>取組①～④に共通する、総合的な「認知度の向上」などについては、取組の計画的な実施により成果を上げることが出来た。一方、流通・販売といった経済活動の部分については、民間の関係団体等が積極的に関与する必要性が感じられた。</p> |
| (8)取組により得られた成果 | <p>○成果1→ 浄法寺地域における漆原木の分布状況を確認する。</p> | |
| | H19 | H20(当初予定していた目標) |
| | 漆原木分布状況の調査実績なし。 | 漆原木の分布状況、生育状況などについて、浄法寺地域内を対象に調査する。(調査面積 110ha) |
| | H20(実際に得られた成果) | |
| | <p>・市が把握していた面積に、漆掻き職人からの聞き取りによる面積も加えた、地域内の約110haについて、漆原木の実態調査を実施した。 ・調査の結果、約50haが植林後の保育管理不良であることが確認され、植林とともに保育管理の徹底も課題となることが確認された。 ・データベース化、地図化により、保育不適地が明らかになり、植林計画を策定する際の基礎データを整備することが出来た。</p> | |
| | ○成果2→ 市民参加による植樹祭を実施する。 | |
| | H19 | H20(当初予定していた目標) |
| | 平成19年度までは、地元高校生の参加に留まっていた。(参加者50名) | 漆植林の普及・啓発の一環として、一般市民の参加者を募り植樹祭を開催する。(参加者100名) |
| | H20(実際に得られた成果) | |
| | <p>・今年度は準備段階から商工会青年部の協力を得て、目標である100人を越える116人の参加者により植樹祭を開催するとともに、茨城県や奈良県においても植樹に向けた動きが生まれるなど波及効果が見られた。 ・参加者である市民に対して、漆の計画的な採取や植栽のため、植樹の必要性を認識してもらうことが出来た。</p> | |
| ○成果3→ 漆に関連する産業への就労プログラムを策定し、漆掻きや漆塗りへの従事者確保と定住促進を図る。 | | |
| H19 | H20(当初予定していた目標) | |
| 就労プログラムの策定実績なし。 | 就労する際の障害となっている事項について明らかにし、就業形態や年代に応じた就労プログラムを策定する。(策定数 10パターン) | |
| H20(実際に得られた成果) | | |
| <p>・研修修了生などに対するアンケートや意見聴取により、年代に応じ求める所得水準を把握し、これに基づいて目標である10パターンの就労プログラムを策定した。 ・他地域からの就労においては、「漆原木の確保」の難しさが就労を妨げる大きな要因となっている事が明らかとなった。</p> | | |
| ○成果4→ 浄法寺漆とその漆芸品について継続的な情報発信の契機とするため、京都市において展示会を開催する。 | | |
| H19 | H20(当初予定していた目標) | |
| 浄法寺漆についての展示会開催実績なし。 | 伝統工芸の中心地であり、国宝・重要文化財が多い京都市で展示会を開催し、漆と漆器に対する認知度向上を図る。(開催期間中入場者数 1,000人) | |
| H20(実際に得られた成果) | | |
| <p>・展示会期間中には、目標としていた約1,000人が来場した。特に、講演会開催日は約450人であり、寂聴さんの知名度を活かし「漆」と「浄法寺地域」の認知度を向上させることが出来た。 ・来場者には、一般市民や関西圏の漆関係者もあったが、ともに漆掻き体験や漆塗り体験を通じて、「浄法寺漆」「浄法寺塗」に対する理解を深めてもらうことが出来た。 ・来場者アンケートでは、「漆が貴重であり、すばらしいものだと感じた。」との感想が多く寄せられ、「漆掻き」や「漆塗り」体験についても「貴重な体験ができて良かった。」との評価を得たとともに、「非常に興味が湧いた。」と漆に対する関心や認知度の向上を確認出来た。</p> | | |
| ○成果5→ 建造物への漆利用促進や漆器の販路拡大を図るために、ワークショップを開催する。 | | |
| H19 | H20(当初予定していた目標) | |
| 漆と漆器に関するワークショップの開催実績なし。 | 専門家や一般参加者から意見や要望を聞き、販路拡大や新商品開発に向けた課題を明確化する。(ワークショップ参加者数100人) | |
| H20(実際に得られた成果) | | |
| <p>・漆、漆器とも約50人、2回で100人を越える参加者により質疑や意見交換を実施した。 ・漆器のワークショップにおいては、塗料としての漆の特性や使用方法、普及方法について意見交換がなされ、製作者が説明することにより、参加者の「浄法寺塗」への認知度が向上し、新商品についての要望も多く聞くことが出来た。 ・漆のワークショップにおいては、生産量と品質の確保に対する要望が多く出されたが、質疑の中で漆芸品、文化財建造物への使用や漆の特性について、参加者への周知を行うことが出来た。</p> | | |

| | | |
|-----------------------------------|---|--|
| <p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・漆原木の実態調査の結果、植林された後の管理が不適切なために、生育状況が不良であるものが多く確認された。植林場所も含め保育管理について、早急に検討する必要がある。 ・漆の産地として、計画的な増産を推進するために、植樹祭への参加や植樹・保育のための基金造成に向け、市民や企業から継続的な協力を得る必要がある。 ・漆掻き職人への就業については一定水準の所得確保も必要であるが、収入を得るための基礎となる「木の確保」についての検討が必要である。 ・就業プログラムに沿った実証実験により、行政支援のあり方について、細部にわたった検証が必要である。 ・展示会のアンケートにより、浄法寺が国産漆最大の産地であることを知らなかった人が80.0%、浄法寺漆を知らなかった人が71.6%、金閣寺の修復に使われたことを知らなかった人が73.7%と、伝統工芸が盛んな京都でさえ「浄法寺漆」については認知度が低い結果が得られた。このことから、継続的な情報発信により、漆についての認知度の向上を図る必要がある。 ・ワークショップでの質疑や意見交換により、消費者が求める製品や生産地として取り組むべき課題が明らかになった。課題を解決するための即応策はないものの、今後は産地である「浄法寺」において、現地体験を含むワークショップを開催するなど、課題解決に向けた継続的な取組が必要である。 | |
| <p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p> | <p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 漆増産に向けた調査と植林の推進(H21年度～) <ul style="list-style-type: none"> ・原木調査範囲の拡大と採取計画及び植栽計画の策定 ・市民参加植樹祭の継続と企業参加の推進 2. 就労プログラムのモニター検証(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> ・「漆関連産業就労プログラム」を踏まえた就労体験やワークショップの開催 ・定住に向けた体制の検討や市民協働による支援方法の検討 3. 観光体験ツアー造成に向けた資源調査と住民ネットワークづくり(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> ・漆を中心とした地域資源の調査と住民組織づくり ・(仮称)「うるしロード」景観コンクールの実施 4. 漆と漆器の展示会開催と漆器のモニタリング調査(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県平泉での(仮称)「浄法寺漆」と“浄法寺塗”展開催 ・新商品開発に向けた、首都圏などでの漆器のモニタリング調査 | <p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 漆増産に向けた調査と植林の推進(H21年度～H22年度) <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:二戸市 ・原木調査の範囲を浄法寺地域以外に拡大し、採取計画と植栽計画を策定する。 ・市民参加植樹祭を継続するとともに、企業の参加も推進する。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額 500万円)]</p> 2. 就労プログラムのモニター検証(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:二戸市 ・「漆関連産業就労プログラム」を踏まえた就労体験や現地体験を含むワークショップを開催する。 ・庁内、関係団体において就業者の受入体制や支援方法の検討を行う。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額 300万円)]</p> 3. 観光体験ツアー造成に向けた資源調査と住民ネットワークづくり(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:二戸市 ・「漆」による地域づくりを進めるために、漆を中心とした地域資源を調査し、交流の担い手となる住民組織づくりを進める。 ・住民に地域資源の周知を図るため景観写真コンクールなどを実施する。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額 100万円)]</p> 4. 漆と漆器の展示会開催と漆器のモニタリング調査(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:二戸市 ・当初予定していた岩手県平泉においては、県事業での展示会が計画されていることから、生産地の現状と取組について理解を深めるため、京都で一定の評価を受けた「漆」を核とした展示会を首都圏で開催するとともに、京都で開催した際に来場した漆や漆器関係者を浄法寺に集め、採取現場等の視察を含めた意見交換会を開催する。 また、今年度協力を得た岩手県立大学の学生による企画展も同会場で開催し、若年層の認知度向上も図る。 ・マーケティング調査の結果を踏まえ、ギャラリーでのモニター販売や飲食店でのモニター使用など、新商品開発に向けた漆器のモニタリング調査を行う。 ・新商品開発や販路拡大については、就業者の確保が前提となることから、「2就業プログラムの検証」と併せ、工芸科を持つ大学等に向けた周知を行い就業者の確保を図る。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額 1,200万円)]</p> |

「浄法寺漆」による地域再生プロジェクト～国産漆最大の産地が挑む元気再生～（岩手県二戸市地域）

◆主な実施取組の内容◆

取組① 漆の原木分布調査及び植樹祭の開催

- ◆地域内の110haを調査しデータベース化 ⇒ 漆原木の状況が把握出来た
- ◆地元高校生・市民約100名が参加し植樹祭を開催 ⇒ 住民に対する周知が出来た



原木調査の状況



漆植樹風景

取組② 漆関連産業就労プログラム策定

- ◆アンケート調査の実施、意見交換など ⇒ 地域の雇用状況も踏まえたモデルとなる就労プログラムを策定した



意見交換会

取組④ 販売促進ワークショップの開催とマーケティング調査

- ◆漆と漆器に関するワークショップ開催 ⇒ 解決すべき課題の明確化と販路拡大に向けた波及効果が得られた



ワークショップ

取組③ 展示会「漆 樹のしづくをあつめて…」の開催

- ◆実物を含めた展示会、瀬戸内寂聴師の講演会を京都市で開催 ⇒ 約1,000人が来場し、「浄法寺漆」「浄法寺塗」の認知度が向上した ⇒ 講演会による相乗効果により広くPRすることが出来た



展示会の状況



講演会の状況



漆掻き体験



漆塗り体験

浄法寺漆が金閣寺の修復に使われたことを

| | |
|-------|-------|
| 知っている | 24.2% |
| 知らない | 73.7% |
| 未回答 | 2.1% |



伝統工芸が盛んで、寺社仏閣の多い京都でも「浄法寺漆」の認知度は低い。

◆取組実施による成果・今後の展開◆

平成20年度において、生産量増大や後継者確保に向けた市民への啓発と、「漆」そのものをテーマとした展示会を関西圏で開催するなど、市外に向けた情報発信を行ったことにより、市内外の「漆」に対する関心や理解は深まってきた。また、同時に解決しなければならない課題も明確になり、就労プログラムの策定やワークショップにより、解決のための方策も示されつつある。

平成21年度以降においては、この方策について、現地体験やモニター使用などにより、今年度得られた成果の検証を行いながら、新規起業や後継者確保も含め、漆産業を振興することで雇用の拡大と所得の向上を目指す。